

## 教職員のメンタルヘルスに関する調査結果(案)(ポイント)

### <調査の概要>

- 文部科学省から、入札を経て、株式会社三菱総合研究所へ委託
- 調査期間：平成24年9月～10月
- 調査対象：200校（公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）、約5000名（校長、副校長・教頭、教諭等、事務職員等） ※無作為抽出

### <結果の概要>（特に有意な傾向が見られた点、これまでの調査等と異なる結果が出た点等）

	校長	副校長・教頭	教諭等	事務職員等
1 教職員のメンタルストレスに関する傾向	<p>○「学校経営」、「保護者への対応」に強いストレスを感じている割合が大きい。</p> <p>○常にストレスを感じる割合は、学校規模が大きいほど高い。</p> <p>○「地域社会、地域住民との関係」、「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、現任校在籍1年以下が大きい。</p> <p>○「教育委員会とのコミュニケーション」、「業務の量」に常にストレスを感じる割合は、平均退校時間が遅いほど大きい。</p> <p>○平均入校時間は7時～7時30分の割合が大きく、平均退校時間は18時～19時の割合が大きい。</p> <p>○教職員としての理想像について、「明確にある」が60%強、「ある程度ある」を含めると100%近い。</p>	<p>○「業務の量」、「書類作成」、「学校経営」、「保護者への対応」に強いストレスを感じている割合が大きい。</p> <p>○常にストレスを感じる割合は、学校規模が大きいほど高い。</p> <p>○「書類作成」に強いストレスを感じる割合は、大規模校が小規模校・中規模校の2倍以上。</p> <p>○「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、現任校在籍年数3年が最も大きく、1年が最も小さい。</p> <p>○平均入校時間は6時30分～7時30分の割合が大きく、平均退校時間は19時～21時の割合が大きい。</p> <p>○教職員としての理想像について、「明確にある」が40%弱、「ある程度ある」を含めると100%近い。</p>	<p>○「生徒指導」、「事務的な仕事」、「学習指導」、「業務の質」、「保護者への対応」に強いストレスを感じている割合が大きい。</p> <p>○「学習指導」、「生徒指導」、「部活動指導」、「校外行事への対応」、「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、中規模校で大きい。</p> <p>○「業務の質」、「同僚との人間関係」、「上司との人間関係」に強いストレスを感じる割合は、学校規模が大きいほど高い。</p> <p>○学校種別による比較で、 ・小学校が最多：「学習指導」、「保護者への対応」、「事務的な仕事」 ・中学校が最多：「生徒指導」、「部活動指導」、「校外行事への対応」、「上司との人間関係」</p> <p>○全体に、現任校在籍年数が長いほど常にストレスを感じる割合が大きい、「学習指導」については現任校在籍年数による有意差は見られない。</p> <p>○平均入校時間は7時～8時の割合が大きく、平均退校時間は18時～20時の割合が大きい。</p> <p>○教職員としての理想像について、「明確にある」が20%強、「ある程度ある」を含めると90%強。</p>	<p>○「業務の量」、「業務の質」に強いストレスを感じている割合が大きい。</p> <p>○「同僚との人間関係」、「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、40代がピーク。</p> <p>○「同僚との人間関係」に強いストレスを感じる割合は、現任校在籍年数2年が大きい。</p> <p>○平均入校時間は7時30分～8時30分の割合が大きく、平均退校時間は18時以前の割合が大きい。</p> <p>○教職員としての理想像について、「明確にある」が10%弱、「ある程度ある」を含めると80%弱。</p>
2 予防的取組に関する事項	<p>○「自校の教職員のストレス状況を把握している」は75%。</p> <p>○「教職員同士で協力し合って仕事をする雰囲気」は「ある」が45%、「どちらかといえばある」を含めると100%近い。</p> <p>○「自校の副校長、教頭との相談しやすさ」は90%弱、「自校の教職員（副校長、教頭以外）との相談しやすさ」は90%強。</p> <p>○職場において業務の効率化等の改善を図る動きがあるのは75%。</p> <p>○「自校の教職員（副校長、教頭以外）との相談」、「教職員同士で協力し合って仕事をする雰囲気」がストレス軽減に効果。</p>	<p>○「自校の教職員のストレスの状況を把握している」は80%。</p> <p>○「教職員同士で協力し合って仕事をする雰囲気」は「ある」が30%強、「どちらかといえばある」を含めると95%。</p> <p>○「自校の校長との相談しやすさ」は90%弱、「自校の教職員との相談しやすさ」は90%強。</p> <p>○職場において業務の効率化等の改善を図る動きがあるのは80%。</p> <p>○「旅行・娯楽でストレス解消」、「自校の校長との相談しやすさ」、「自校の教職員との相談しやすさ」がストレス軽減に効果。</p>	<p>○「教職員同士で協力し合って仕事をする雰囲気」は「ある」が35%、「どちらかといえばある」を含めると90%弱。</p> <p>○仕事上のストレスについて相談しやすいのは、職場の同僚や先輩（75%）、職場外同僚や先輩（65%）、上司（50%弱）の順。</p> <p>○職場において業務の効率化等の改善を図る動きがあるのは50%強。</p> <p>○「職場を離れての同僚・先輩とのコミュニケーション」、「上司との相談のしやすさ」、「教職員としての理想の強さ」がストレス軽減に効果。</p>	<p>○「教職員同士で協力し合って仕事をする雰囲気」は「ある」が30%弱、「どちらかといえばある」を含めると80%強。</p> <p>○仕事上のストレスについて相談しやすいのは、職場の同僚や先輩（70%）、職場外同僚や先輩（60%弱）、上司（50%強）の順。</p> <p>○職場において業務の効率化等の改善を図る動きがあるのは70%。</p> <p>○「上司との相談のしやすさ」がストレス軽減に効果。</p>
3 復職支援（繰り返し休職）に関する事項	<p>○病気休職の回数が多い者ほど、再び病気休職に入るまでの間隔が短い。</p>			